

「エサウの系図」

2021年05月12日

エサウ、すなわちエドムの系図は次の通りである。(創世記 36 章 1 節～5 節)

36 章は、エサウに関する系図を長々と記している。聖書の民は、系図を示すことによって、自分が誰であるかというアイデンティティを表明した。系図を重要視する文化を形成し、それは、歴史を編纂する力量を高めた。(以下、×は結婚、→は子、⇒は孫を示す)

エサウの子孫の首長たち

- ×アダ (ヘト人) →エリファズ⇒テマン、オマル、ツェフォ、ガタム、ケナズ、コラ
- ×ティムナ (側女) ⇒アマレク
- ×オホリバマ (ヒビ人) →エウシュ、ヤラム、コラ
- ×バセマト (叔父イシュマエルの娘) →レウエル ⇒ナハト、ゼラ、シャンマ、ミザ

エサウは妻、息子、娘、家の全ての者、家畜と全ての動物、カナンで蓄えた全ての財産を携え、弟ヤコブから離れてほかの地へと赴いた。彼らの財産があまりに多く、一緒に住むと、家畜の餌が確保できなかったからである。エサウはセイルの山地に住み、エドム人となった。兄弟は別々の生活圏を生きたということである。

この地の住民フリ人

セイル (彼の子らがフリ人の首長)

- ロタン ⇒ホリ、ヘمام ロタンの妹ティムナ
- ショバル ⇒アルワン、マナハト、エバル、シェフォ、オナム
- ツイブオン ⇒アヤ、アナ
- アナ ⇒ディション、オホリバ (娘)
- ディション ⇒ヘムダン、エシュバン、イトラン、ケラン
- エツェル ⇒ビルハン、ザアワン、アカン
- ディシャン ⇒ウツ、アラン

イスラエル人の王がいなかった時代のエドムを治めた王たち

ベラ、ヨバブ、フシャム、ハダド、サムラ、シャウル、バアル・ハナン、ハダル

エサウのその他の首長たち

- ティムナ、アルワ、エテト、オホリバマ、エラ、ピノン、ケナズ、テマン、ミブツァル、マグディエル、イラム

創世記の族長物語はアブラハム、イサク、ヤコブ、そしてヨセフと続き、彼らの信仰に生きた生涯をドラマチックに、神の救いの歴史として描いている。彼らの生涯は、信と不信の狭間を揺れ動いているが、祝福を受け継ぐ者として、神は彼らを導き、支えてくださった。一方のエサウは、イサクの長男でありながら、神の祝福に漏れたとされる人物である。彼は直情的で、見えない神を問うことはなく、現世を求める俗物と言えよう。しかし、悪意、敵意を持たない、屈託のない人物である。創世記の著者はエサウの系図を詳細に記している。その意図は、エサウがセイルに住み、エドム人の祖となったことを伝えるためである。彼の子孫もそれぞれのドラマを生きたことであろう。著者は、エサウと子孫もまた、アブラハムに繋がった者として、神の祝福に与った者たちであると、主張したいのではないか。神は全ての人々を、御手の中に治め、祝福を与えられたと、エサウの系図から読み取れる。神は一人も見捨てられないということである。